

95 やくし どうやくし さんぞんぞう
薬師堂薬師三尊像



指 定 市有形文化財 平成10年 4 月1日
所在地 入 沢
所有者 日向 一族



この薬師堂には、木造薬師如来坐像および脇侍の日光・月光両菩薩立像が安置されている。この仏像の光背の頭光部鏡の裏側に、「信州佐久郡入沢村、矢崎山薬王寺本尊、聖徳太子御作、以万人供養成就之、願主心応寶鉄、大佛師中川久康彫剋、元禄四辛未稔五月吉日」と記載されている。

薬師堂は、宝永元年（1704）7月田野口藩に提供された「信州佐久郡入沢村明細差出帳」に、その存在が記載されている。また、現在堂内に保管されている鰐口に「寛文五年五月十二日奉掛」と刻まれていること、堂の庭にある手洗い石は万治3年（1660）建立であること等から、1660年頃薬師堂が建てられていたと考えられる。

その後、薬師堂の建物は老朽し建て替えが行われたが、木像薬師如来三尊像は大切に受け継がれてきた。現在の薬師堂は明治中期に建設されたといわれている。

薬師如来木像の大きさは光背・台座を含め、全体の高さ約130cm（薬師如来坐像は高さ56cm、幅43cm、奥行30cm）の木彫金箔仏像で、右手は胸の前で施無畏印をし、左手は与願印をして、その上に薬壺をのせている。

光背は高さ86cm、幅54cmの二重円相船形光背で、上部中央に薬壺・外縁周囲に十二神将が刻まれている。脇侍像は、高さ約75cmである。

薬師堂および薬師三尊像は、1600年代入沢村で聖徳太子の薬師信仰にならって建立、制作され、地域住民の信仰の中心的存在であったとされる。